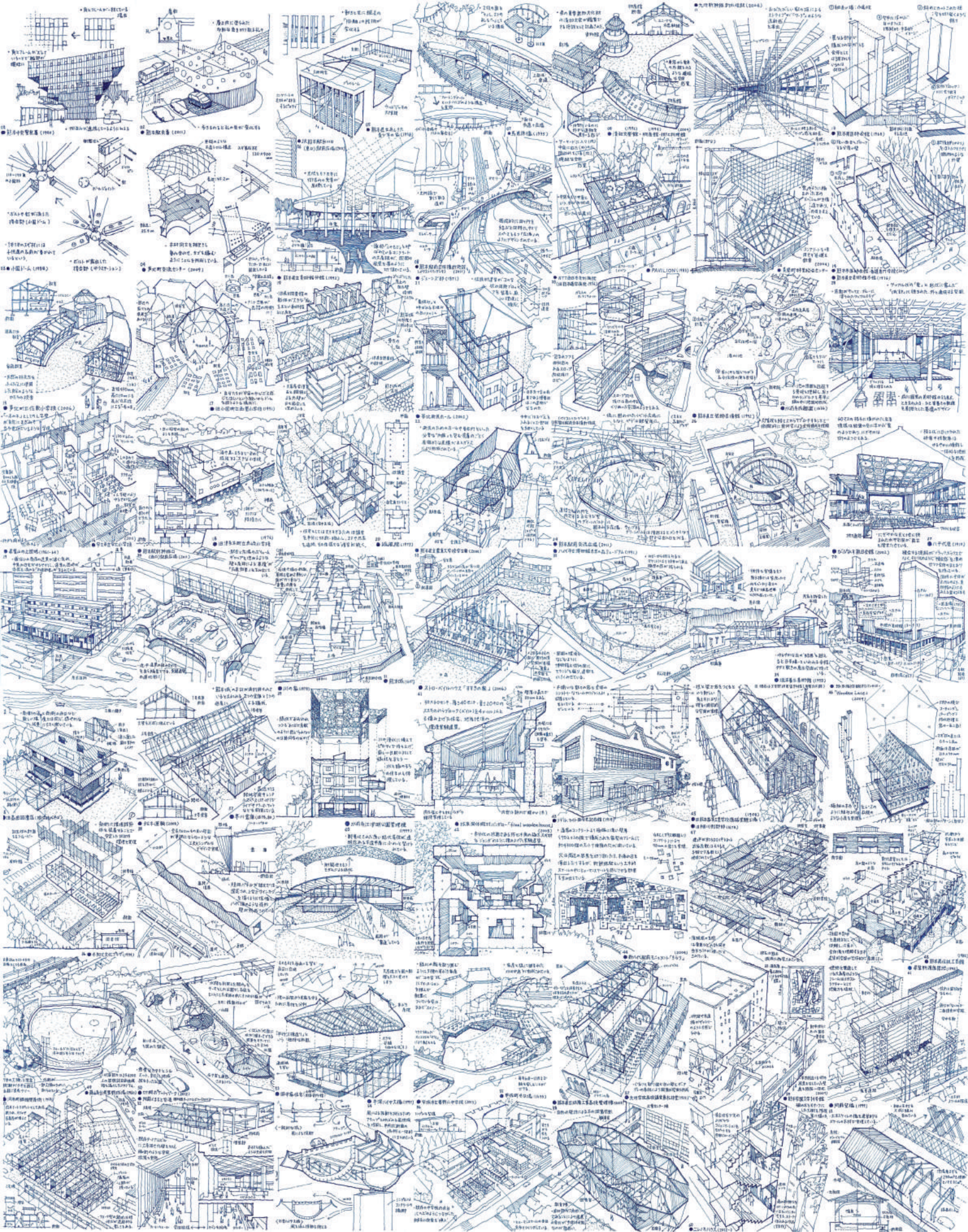




GIII - vol.130

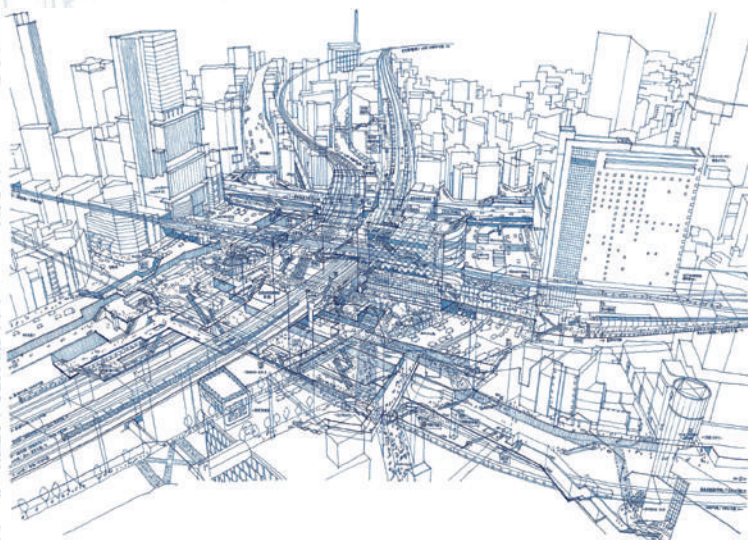
田中智之の解体新書展

熊本市現代美術館
CAMK Contemporary Art Museum, Kumamoto

2019.08.28 wed ▶ 10.27 sun 10:00 - 20:00 火曜休館 入場無料 熊本市現代美術館 ギャラリーⅢ ※Ⅲ(ギャラリーⅢ)は、熊本・九州ゆかりのアーティストを紹介するスペースです。
主催：熊本市現代美術館 [熊本市・公益財団法人熊本市美術文化振興財団] 助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団 《建築の森・熊本を歩く》2018 (部分)

青ペン1本による脅威の空間解剖図‘タナパー’を大公開！

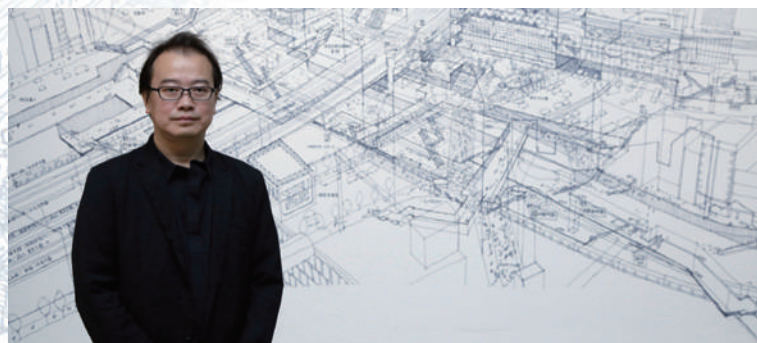
熊本市現代美術館・ギャラリーⅢでは130回目の展示として「田中智之の解体新書展」を開催します。田中智之は、熊本大学で建築を教える傍ら、通称「タナパー」と呼ばれる、建築物をX線で透過したかのような、青ペン1本で内部構造を表現する驚異的なパース画で知られます。本展ではその「タナパー」を中心に、近年の多岐にわたる田中の仕事を「解体」し、ご紹介いたします。



《渋谷駅解体》2011

● 田中 智之 Tomoyuki TANAKA

1971 年埼玉県生まれ。1999 年早稲田大学大学院博士後期課程単位取得退学。NASCA、同大学専任助手、同大学芸術学校客員講師等を経て 2005 年より熊本大学で教鞭を取る。2006 年に TASS 建築研究所を設立、2014 年建築作品による博士号を取得（早稲田大学）、2018 年より熊本大学大学院教授。主な作品に「熊本駅周辺地域都市空間デザイン（2005-/都市デザイン）」、「渋谷駅解体（2011/ドローイング）」、「京町の家（2014/住宅）」、著書に『建築の森・熊本を歩く』（2018 年、彰国社）、『階段空間の解体新書』（2018 年、同）。主なグループ展に『土木展』（2016 年、21_21DESIGN SIGHT/東京、藝倉美術館/上海）、『めがねと旅する美術展』（2018 年、青森県立美術館、島根県立石見美術館、静岡県立美術館）。『Made in Tokyo: Architecture and Living, 1964/2020』（2019 年、ジャパン・ソサエティ/ニューヨーク）に参加予定。



撮影：木良恵三

● アーティスト・トーク

作家本人が自作や近年の活動について語るほか、後半は『プレイスメイキング〜アクティビティ・ファーストの都市デザイン』で表紙挿画にタナパーを使用し、公民連携による公共空間の活用について実践する園田聡氏（有限会社ハートビートプラン）と熊本市のシンボルプロムナード・（仮称）花畑広場にも携わる広場ニストの山下裕子氏をゲストに迎え、都市空間のデザインについて共に語って頂きます。

日時：2019 年 8 月 31 日（土）14:00-15:30

会場：熊本市現代美術館ホームギャラリー 参加無料

● ワークショップ「タナパーを描こう！」

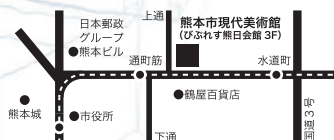
作家本人から「タナパー」の極意を学び、遠近法や基礎的な透視図法を使って、実際に建物や空間のパース画をたのしく描いてみましょう。

日時：2019 年 9 月 28 日（土）14:00-15:30

会場：熊本市現代美術館キッズファクトリーほか

対象：20 名（小学生～大人まで、先着順）※小学生は保護者同伴

参加無料・要事前申込（美術館までお電話でお申込み下さい）



熊本市現代美術館
CAMK Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市中央区上通町 2-3 びふれす熊日会館 3 階
tel. 096-278-7500 www.camk.jp